

なんもく 山村ぐらし通信

第5回移住者交流会を開催

移住者と協議会会員、役場職員33名が一同に会して交流

2月25日に、第5回「移住者との交流会」が開催されました。冷え込みが厳しい寒さのなか、南牧歴3年未満の移住者、協議会会員、村役場職員、県庁職員の全33名、下は小学生から上は60代までが一同に会し、賑やかに交流しました。

自己紹介では、移住した理由や、南牧村のこんなところ(行ってきた!)といった。

協議会・岩井)

移住者・松林)

全員の顔が見渡せる会場に最初は緊張しましたが、会が進むうちに席を移る方が続出し、私も多くの方と自然に会話できていました。参加者の自己紹介も個人的で面白く、村長も気さくな方で安心しました。今回の交流会で様々な方々と繋がることができ、村暮らしが楽しくなりそうです。



会場は千歳屋飲食店の2階



最後に集合写真

2018(平成30)年6月発行
通巻第25号版(春季号)

発行責任者及び発行元:
南牧山村ぐらし
支援協議会
問合せ:南牧村役場
村づくり・雇用推進課
協議会事務局
電話:0274-87-2011(代)

紙面編集:広報FM



協議会QRコード

協議会HP
<http://nanmoku.org/>
活動内容や各種情報を
随時更新中!

3/4 東京有楽町 ふるさと回帰支援センター ぐんま暮らし相談会に参加

3月4日、東京・有楽町のふるさと回帰支援センターで行われた「ぐんま暮らし相談会」に、協議会メンバー3名と事務局1名の計4名で参加してきました。会場はコンパクトに設営されていて、群馬県から来た13市町村のブースが並んでいました。今回、私はセミナーのゲストコメントターを務めるので、始まる前からドキドキです。



盛況だった当日の説明会

市、長野原町、みなかみ町の移住者の方々が参加し、移住のきっかけや地域での活動、暮らしについて、司会進行役の雑誌「TURN S」編集長の質問に答える形式で進行了ました。私の番になり、あらかじめ用意していた南牧村の風景写真

がスクリーンに映し出されると、やはりいいとこだな」と改めて南牧村の魅力に浸ってしまいました。そして、この機会に一人でも多くの方に村の魅力を受け取ってほしい、南牧村に足を運んでほしいという思いを込めて、お話をさせていただきました。

今回の相談会のテーマは「移住先での仕事の見つけ方、はじめ方」でした。セミナーには私のほかに、桐生市、長野原町、みなかみ町の移住者の方々が参加し、移住のきっかけや地域での活動、暮らしについて、司会進行役の雑誌「TURN S」編集長の質問に答える形式で進行了ました。私の番になり、あらかじめ用意していた南牧村の風景写真



カール・ベクス氏が改修した古民家を訪問

新潟県十日町市視察研修 参加レポート

3月18日に、新潟県十日町市へ視察研修に行ってきました。十日町市は豪雪地帯ということでしたが、当日は天候も良く、残雪の美しい風景を見ながら、学ばせていただきました。

「なんもく村の古い写真を探しています!」

「ご協力ください」昔の南牧村の様子や生活を記録した古い写真を探しています。写真が悪くても、折れて曲がっていても大丈夫! いちど引出の奥を覗いてみてください。連絡は役場村づくり雇用推進課 高柳まで

最初の視察先は、改修した古民家で、1階ではビール&ピザの店「ALE」2階ではゲストハウス「ハチャネ」を運営する株式会社YELLさん。1階で自慢のピザとビール、あくまでも試飲)を頂きながら、今日

次回の視察先は、市が運営する「竹所シェアハウス」です。このハウスがある竹所集落には、ドイツ人デザイナーのカール・ベクス氏が改修した古民家が多く、シェアハウスも景観に配慮して、カール氏のデザインを採用したお洒落な造りになっていました。

私は昨年にも参加しましたが、今回の視察を終えて、上手くいっている地域には共通点があると感じました。各地域で規模や条件は異なりますが、その共通点を頭に留めながら今後の南牧ライフの参考にしたいと思えました。(中澤)

【29年度1~3月
空家問合件数】
電話による問合せ9件
(1月 5件)
(2月 1件)
(3月 3件)
メール・手紙・FAXでの
問合せ21件
(1月 13件)
(2月 2件)
(3月 6件)
現地物件見学案内18件
(1月 5件)
(2月 5件)
(3月 8件)

【協議会ウェブサイト
訪問・閲覧状況報告】
※2/24~(約90日間)
ページ閲覧数 60,237
サイト訪問数 5,804
サイト訪問者数 3,740
(同一人は1とカウント)
平均ページ閲覧数
1訪問当たり10.38ページ

NEW FACE 協議会メンバー紹介



さわやかで凛々しい高橋くんは地域おこし協力隊。只今道の駅オアシスなんもくで活動中。

村人からの投稿

中学校を卒業と同時に南牧村を出て、結婚と同時に家を継ぐために村へ帰ってきました。

子供のころの私は、村は有って当たり前前で、村のことなど特別ななんの思入れもなく若かったころもあり、村のことには関心がありませんでした。警戸中学校も私たちより上の学年までは三クラスあり、私たちは二クラスになったものの同級生は八十三人もいたのです。

今のようにこんなに人口が減ってしまうなんて考えてもいなかったのに、南牧村に戻ってから朝早く家を出て会社に行き、夜遅く帰ってくるだけの生活が続ききました。子供が出来て、やっ

いろいろな村に目が向くようになった頃には、子供の同級生は最終的に十一人。村中で十一人になつていたので。

今はかあちゃん本舗で働いていて、村にどっぷり浸かっている私は今更ながら、この村をなくしたくないと思つています。少し前に石垣積みを見させてもらって、きれいに戻った畑を見て、美しい元気な村がずっと続いてほしいと改めて思いました。

ああ、もう想いはいっぱいあるのだけどどうまく言えません。ずっとずっと南牧村が続きますように少しでも協力できたらと思っています。
幸恵さん寄稿

川原の石を重しとして乗せているのが見えますが、杉の皮を屋根材に使っていたのはいつ頃？昭和30年代？それ以前？

この写真は警戸橋下流にある通称「製板川原」辺りになります。山から一筋の沢が流れ落ちて「ひのさわ」と呼ばれています。

ここでは川の流れを利用して、製糸工場、石加工所、製板工場となり、戦後、赤麻あかその繊維工場そして再び製板工場になりました。

電化されて最後は精密機器の工場だった気がします。だいがこの景色も変



タイムマシンへなんもく号

～南牧村の今と昔を歩いてみませんか～

わり、今ではブロック塀が出来て、沢の上流部には堰堤があります。歩きやすいようにコンクリートの道があったり、川の水量が増えても流されないようにしっかりとした橋がかかり、村道2号も通っています。

今は痕跡もありませんが、昔の警戸橋の下には大岩があり、そのせいで川筋が今とは違うように見えます。

山の斜面には段々畑があり当時何を作っていたのでしょうか？
金田会長寄稿

『ぶらいなんもく村』

～マイナスイオンたっぷりの癒しのスポット～

南牧村に来てから2回目の春。すっかりここで生活が身体に馴染んできているのを感じながら、去年はここまですごかった花粉と格闘する毎日を過ごしました。

5月の紫外線たっぷりの日差しを優しく遮る緑の中をテクテク歩くのはとても気持ちが良いです。また、川沿いを登っていくので、せせらぎを聞きながらの散策は、まさに天然のリラクゼーション体験。その分、虫さ

とができています。私は四季の中で一番新緑の時期が大好きなので、ウキウキしながら毎日山々を眺めています。しばらくすると、まるで大きなブロッコリーのようにもこのこと木々の勢いを感じることができて本当に素敵です。南牧村にはたくさんありますが、同じくらい滝もあります。今回は、この新緑の季節におすすめの三段の滝をご紹介します。

羽根沢の民俗資料館を勧め方面へ進んで、自然公園キャンプ場方面へ向かいます。駐車場からは案内に従って登山道を約30分ハイキング。5月の紫外線たっぷりの日差しを優しく遮る緑の中をテクテク歩くのはとても気持ちが良いです。また、川沿いを登っていくので、せせらぎを聞きながらの散策は、まさに天然のリラクゼーション体験。その分、虫さ

くさんの魅力あふれる山々もありますが、同じくらい滝もあります。今回は、この新緑の季節におすすめの三段の滝をご紹介します。

南牧三名瀑』のひとつ

迫力の流れは必見です!



きちんと手が入った歩道だけでなく、ゴロゴロの岩場を登ったりと足場の変化も楽しいです。所々に、滝まで〇〇キロメートルと案内板もあるのですが、気持ち的にも下降することなく進んでいくことができます。ぜひ、皆さんも歩きやすい靴を履いて、タオルや水分、そして南牧銘菓も忘れずに散策してみてください。谷津協力隊員寄稿